

沖地ネット

沖縄県南城市大里字大里 2013

電話：098-945-2686 FAX：098-945-3973

E-mail：okichinet@koeikyo.com

ふるさとの薫り



イチグシチャーまちづくり市民の会
(うるま市水と緑を考える会)

会長 又吉 弘

私が幼少の頃、生まれ育った村(集落)には、ムラブー、またはただブーと呼ばれている共同作業があった。これは災害時の復旧作業、道路の新設や補修など、村全体で取り組むもので、そのミニ版がイイセーあるいはユイと呼ばれている相互扶助である。

その後、このムラブーが次第に小さなグループで行われるようになり、物喰えー手間ムンクエーディマ(まかない代わりのちょっとした手間賃)でやったり、幾ばくかの賃金を貰ったりして地域貢献をしていたように思う。同様の共同作業は、当然、ほかの村々にもあったであろうし、自分が生まれるずっと前からあったであろう。思えば、それが沖縄の地域おこし事業の原点ではなかろうか？

我々の心の奥底には、その精神が宿っているはずだ。よく不況になるとハルサー(農家)が増えるといわれるが、大地に足をつけた生活こそが食物連鎖の原点であり、環境保全への回帰である。

我がうるま市もかなりの遊休農地があり、農業委員会も何とかしようとして躍起になっているが、笛吹けど踊らずで、ややもすると農地や雑草がいつの間にかアパートやマンションになっている。そうなる前に若者たちを対象に、沖地ネットでプロジェクトを組んでシンポジウムや講演会などを開催したいものである。いずれにしても、地域づくりネットワークの力をフル回転させる時期である。

活動・事業案内

沖縄県地域づくりネットワークでは、本年度も重点支援・交流促進事業及び一般活動支援事業を実施する予定です。民間会員の皆さまは、ぜひ一度ご検討ください。申請書はご請求いただければ事務局からお送りいたします(ホームページからもダウンロードできます)。また不明な点はお気軽にお問い合わせください。皆さまのご応募お待ちしております！

①重点支援・交流促進事業

1 コラボレーション事業につき 20 万円を上限とし、1 事業に支援。

利用対象者：本会会員(民間会員及び行政会員)で、会員同士または、会員と非会員の行政、自治会、市民団体等とコラボレーションによる地域づくり活動事業を行う者。

②一般活動支援事業

1 事業につき 4 万円を上限とし、3 団体程度に支援。

利用対象者：本会会員のうち民間会員で、地域づくり活動事業を行う者。過去 3 年連続で助成された団体を除く。

※ただし①②両事業併せて助成額の上限を 32 万円とする。



平成 27 年度はイチグシチャーまちづくりの会、天願自治会等が協働した「河川防災について考える防災訓練及びワークショップ」が重点支援・交流促進事業の助成金で行われた。

民間活動紹介

NPO 法人島尻体験ネットワーク
専務理事 / 事務局長 平良信孝

地域力を結びつけて活かしていくことにより地域を活性化する活動を行って行きたい。

その思いを共にする 12 人の人達が任意団体を立ち上げました。

まず、どんな地域力があるかという情報収集から始めました。昔ながらの黒糖づくり、陶芸、木工、琉球舞踊の劇場、EM農法の農場、培養土の工場、商店、歴史的な集落の遺構、ホテル……

こういった仕事に携わっている人達が活動の中心となり、互いに連携をすることから始まったのです。

南城市の良さを再発見する企画をし、研修を始めました。黒糖づくり体験、農場見学、幻の集落の散策などを組み入れたものです。受入側にも経済効果があり、参加者共々、地域の交流が出来ました。この研修コースはしばらくして旅行社主催の観光ツアーにもなりましたが、利用者が少なく数回で終了しました。企画、継続の難しさを実感しました。その後、琉球舞踊館うどいの修学旅行の民泊を依頼された地域の人々が賛助会員として入会し会員が増えました。毎年、交流会や研修会などを開催し活動の輪が広がっています。

しかし新しい素材や企画を見つけない限り継続は難しいのです。それは他の地域づくりでもみられることではないでしょうか。

注) 文章は本人の意向により原文のまま掲載しています

「平成 28 年度沖縄県地域づくりネットワーク まちづくりシンポジウム」

開催日程が決定しました！

前回、平成 28 年 1 月に開催いたしました「まちづくりシンポジウム」ですが、本年度は「地域創生を目指して～産官連携の成功事例に学ぶ地域活性化の取り組み～」と題して 8 月 26 日（金）に行うことになりました。

内容は前回の事例紹介で大変好評を博したコープおきなわ ひと・まち・ものづくりサポーターで内閣府認定地域活性化伝道師の石原修氏に特別講演をお願いしているほか、水産経済学がご専門の東京水産大学の婁小波教授に基調講演をお願いしています。また事例発表では、沖地ネット会員でもある読谷村ゆたさむら推進部部長の山内嘉親氏、コープ石原氏と連携してヒット商品を生み出してきた伊江漁業協同組合代表理事組合長の八前隆一氏、株式会社琉珉珉代表取締役社長の比嘉竜児氏の 3 名に産官連携の成功事例を紹介していただきます。

前回にもまして、有意義で内容の濃いシンポジウムになること間違いなしなので、皆さん、ぜひ足をお運びください。

平成 28 年度沖縄県地域づくりネットワーク まちづくりシンポジウム
「地域創生を目指して ～産官連携の成功事例に学ぶ地域活性化の取り組み～」

日時：2016 年 8 月 26 日（金）13:30～17:30（受付開始：13:00～）

会場：沖縄船員会館 2 階ホール（那覇市前島 3-25-50）

参加無料（要申し込み）

※現在チラシを作成中ですので、できあがり次第皆さまに送信（送付）いたします。詳細をお知りになりたい方は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

行政活動紹介

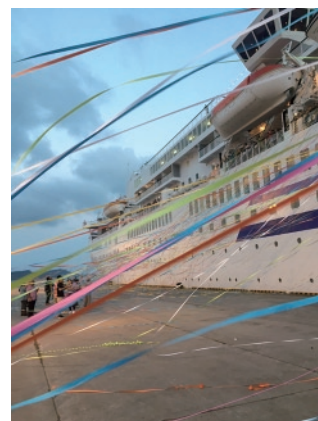
中部広域市町村圏事務組合
沖縄県地域づくりネットワーク運営委員
小浜 守作

中部広域市町村圏事務組合は、中部の 9 市町村で構成される特別地方公共団体で、構成市町村の共同処理事務やふるさと市町村圏基金を活用したソフト事業に取り組んでいます。

当組合が事務局を担当する「おきなわマラソン」は、今年度で第 25 回目の大会を迎えます。記念大会として、さまざまなおもてなしを計画しています。その 1 つとして各市町村が運営する公式エイドステーションにて市町村の特産品を用意して、ランナーに振る舞う予定です。起伏の激しいチャレンジングなコースですが、練習を積み重ね、ぜひ挑戦してみてください。

また、今年の中城湾港に 10 年ぶりに外国籍のクルーズ船が寄港し、話題になりました。これまで何度も関係機関と調整を重ね、関係市町村と受け入れ態勢を整えてきました。4 月から 9 月までで 12 回の寄港予定がありますので、今まで素通り観光といわれてきた中部のあり方を変える大きなチャンスだと思っております。

これからも中部広域圏の発展や地域活性化に向けた取り組みを推進してまいります。



4 月 14 日に寄港した「ばしふいっくびいなす」の見送りの様子